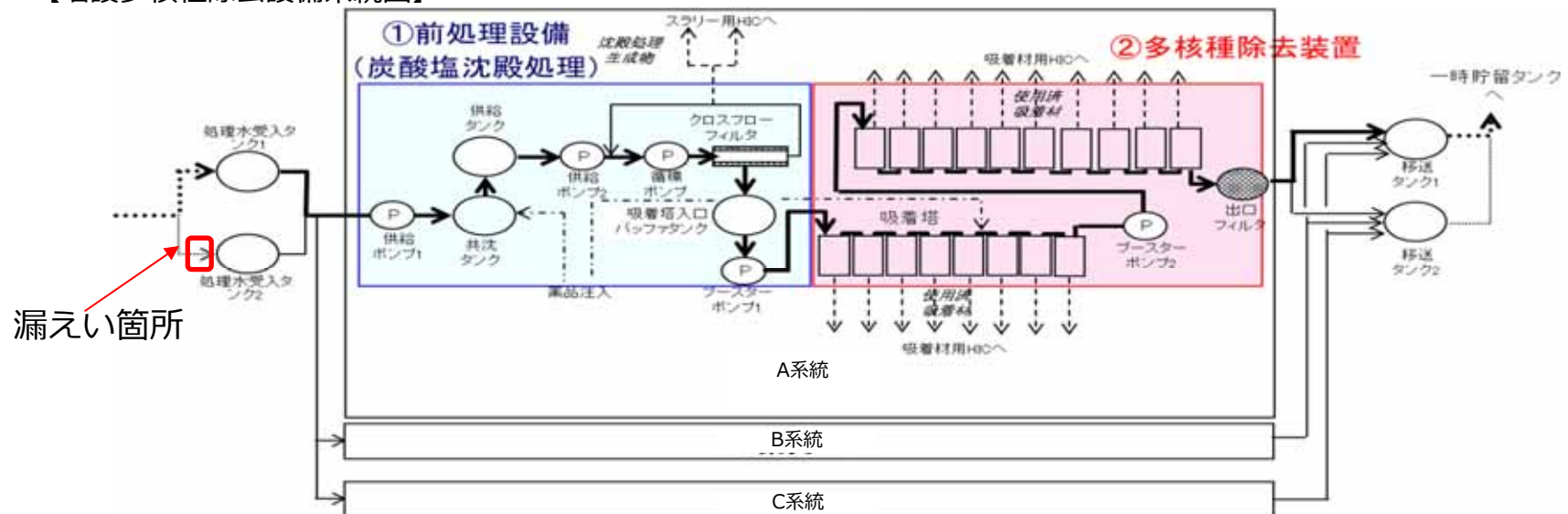


# 福島第一原子力発電所 増設多核種除去設備 処理水受入タンク2 入口弁フランジ部からの漏えいについて

< 参 考 資 料 >  
2020年7月1日  
東京電力ホールディングス株式会社  
福島第一廃炉推進カンパニー

- 本日（7月1日）午前10時43分頃、運転中の増設多核種除去設備処理水受入タンク2 入口弁フランジ部から水が滴下していることをパトロール中の協力企業作業員が発見しました。
- 滴下した水は増設多核種除去設備にストロンチウム処理水を受け入れるタンク2の上流側の水であり、滴下範囲は約50cm×約50cm×深さ1mmです。
- 発見時、水は1分間に1滴程度で滴下していましたが、増設多核種除去設備を循環待機としたことにより、午前11時20分、滴下が停止したことを確認しております。また、床面の拭き取りを実施するとともに、念のため、フランジ部について、袋養生を実施しています。
- 滴下した水は建屋の堰内に留まっていること、および敷地周辺モニタリングポスト、連続ダストモニタに有意な変動がないことを確認しており、周辺環境への影響はありません。
- なお、当該漏えい水については、滴下した水の量が少ないため分析は出来ていないものの、直近（2020年6月9日）における運転時の定例分析結果は、全ベータ： $4.25 \times 10^4$  Bq/L、セシウム-134： $4.83 \times 10^1$  Bq/L、セシウム-137： $9.60 \times 10^2$  Bq/Lあることを確認しています。（上流側のストロンチウム処理水タンクからサンプリングしたもの）
- 今後、フランジ部から水が漏えいした原因を調査し、適切に再発防止対策を講じてまいります。

【増設多核種除去設備系統図】



# 漏えい箇所

---



漏えい発生箇所

床面の水溜まり範囲  
約50cm x 約50cm x 深さ約1mm